

会派の代表者が施政方針や予算案の概要に対して質問しました
※今号の会派名は令和4年2月定例会時点となります。

緑水会

野村 諒子



将来に負担を残さない財政運営

問 令和4年度予算では依存財源が増加し、自主財源比率が下がっている。庁舎建設等の必要とされる大型事業を控えており、できるだけ市債残高を抑えて将来負担を残さない財政運営が必要と考える。そのための具体的な取り組みを伺う。

答 市債について、借入額が償還元金を上回らないよう留意する中、新庁舎建設など必要な事業は着実に推進するとともに、主な自主財源である税収増加に向け、移住・定住や企業誘致、将来の増収につながる投資的事業を実施するなど、安定した財政運営に努めていく。

新未来21

岡田 美喜子



スマート自治体による市民サービスと業務効率化の向上

問 スマート市役所宣言から2年。新型コロナウイルス感染症拡大により、求められる市民サービスのオンライン化やICTによる行政運営の効率化、情報発信等、これまで進められなかった課題を一気に進めるチャンスと考えるが、本気度を伺う。

答 スマート自治体の推進は、コロナ禍により新しい生活様式の対応が必要となるなど多くの変革が求められている。市民目線で市民サービスの向上を最優先に、三島市DX推進基本方針の重点取組事項をひとつひとつ着実に実行していく。

快適で暮らしやすいまちを目指す土地政策推進への取り組み

問 交通の利便性が向上した大場地区において、都市的土地利用への転換を進めていくとしているが、地権者団体や地域住民の関心が高まっている。開発事業支援への具体的な取り組みと、予想される導入機能とはどのようなものか伺う。

答 令和4年度は地権者団体の設立と運営に関する支援、事業計画案の検討を行い、5年度には事業計画案の決定、7年度には市街化編入等のための手続を想定している。工業系の産業集積に一部商業施設の導入が現実的だが、地元の意見を踏まえ検討していく。

アフターコロナの新たな観光戦略「朝の街みしま」

問 本市はガーデンシティにふさわしく、市民や団体等の努力によりきれいな街になった。来訪者が朝の街を散歩するなど滞在時間を延長して頂くために、新たな魅力として「朝の街」をキーワードに官民協働の取り組みができないか。

答 アフターコロナに向けた新たな観光市場の開拓として、朝旅の促進、ナイトタイムの滞在促進の2本立てで、早朝や夜間の活用による新たな時間市場の創出事業と位置づけ、新しい観光施策の実証事業として推進していきたい。

地域防災リーダー育成における女性活躍推進の取り組み

問 繰り返される自然災害に備える自主防災活動では、近年女性の視点を取り入れた防災が求められている。そこで、地域防災リーダー育成事業における、女性の活躍推進への取り組み状況について伺う。

答 自主防災組織リーダー研修会において可能な限り各組織女性1名の参加を依頼し、198名の内49名の女性に参加いただいた。また、三島市防災指導員は現在16名の登録者の内5名の女性があり、地域等において女性ならではの視点で啓発活動や訓練指導を行っている。

三島駅南口東街区再開発の期待される事業効果

問 駅前再開発は、時代の流れを的確に把握する必要があるが、移住者の増加、にぎわい創出および市民の利便性向上等が期待されるが、一部の市民から心配の声も上がっている。期待される事業効果についてどのように考えているか。

答 杭を打たない直接基礎での施設計画など、三島市の宝である地下水・湧水の保全を前提に進めている。多機能な複合施設の整備により「にぎわい増幅装置」として、新たな人の流れの創出、人と街をつなぐハブ機能などの事業効果につなげていきたい。

公明

堀江 和雄



子ども政策をど真ん中に据えていく政策展開

問 三島市は子育て支援政策を実施しているが、0歳児は10年間で約280人減少した。子育てに対する不安解消や将来への希望が持てるビジョンが必要と考えるが、子どもを社会のど真ん中に据えるチャイルドファーストの戦略について伺う。

答 深刻な少子化に対して、子ども政策は最重要課題であり、地方創生を推進するための「第2期住むなら三島・総合戦略」では基本方針や基本目標に若者の結婚から子育てまでの希望をかなえることを掲げ、妊娠・出産・産後まで切れ目のない支援に取り組んでいる。

改革みしま

藤江 康儀



要介護者、高齢者等の支援について

問 高齢者救急要請等の場合に、徳倉地区で町内会が主体となり行っている「緊急医療情報シート」という取り組みがあるが、これを支援し、このような取り組みを市内全域に普及できないか伺う。

答 徳倉地区と北上地区地域包括支援センターが連携して実施する「緊急医療情報シート」の活用は、高齢者本人や家族、近隣の方々の安心・安全な生活の維持に有効な取り組みであるので、この活動をサポートするとともに、他の地域にも波及できるように支援していきたい。

三島駅南口東西街区周辺のエリアデザインにワクワクを

問 三島駅南口の東西街区、そして楽寿園の新たな価値提供とともに歩きたくなる導線の確保、さらに駅前のにぎわいと同時に市民のワクワク感を増幅させる周辺の土地利用を含んだエリアデザインについて伺う。

答 歩いて楽しいウォークアブルな歩行空間とまちなみ景観形成による回遊性の向上が重要となる。人と街を繋ぐ拠点となる東西街区や楽寿園への導線など、駅前広場利用環境を整備し、まちの魅力と市民生活の質の向上を図り、来訪者が増加するまちづくりを進める。

違法開発・違法盛土対策について

問 熱海市土石流災害を踏まえ、三島市内の違法盛土等の開発業者に対して指導及び監視体制はどのようになっているのか。あわせて、今後の違法盛土等の規制・監視体制について伺う。

答 最も規模の大きい事業は、違反者に対し、既に中止命令を発令し、土砂災害の発生を未然に防ぐため、是正指導と継続的な監視を行っている。県条例が制定された後には、市条例の改正の準備を進め、県との連携をより強化し、違反盛土への指導に当たる。

2050年三島市のカーボンニュートラルシティ実現に向けて

問 2050年二酸化炭素排出実質ゼロの実現に向けて、第3次三島市環境基本計画における地球温暖化対策の目標と取り組み、さらにカーボンニュートラルシティの表明について伺う。

答 市内の温室効果ガス排出量について、2031年度までに2013年度比で46%以上の削減を目標とし、再生可能エネルギーの利用や省エネ活動の促進等に取り組む。計画の公表にあわせ、今年度中の2050年カーボンニュートラルシティ表明を目指す。

未来農業次世代人材育成について

問 山田川自然の里・佐野体験農園等で、自然農法による有機野菜の実践を通し、農福連携や市民農園の素晴らしさを実感していただき、未来の就農者発掘に結びつけることはできないか伺う。

答 新規就農者発掘のきっかけとして、市民向けの体験イベントや市民農園利用者への技術指導を通じ、多くの方に有機農業の理解をいただくとともに、生産者やJAなどの関係者と情報共有するなど連携し、有機農業に取り組む生産者を支援していく。